

- 1 単元名・教材名 場面の様子をくらべて読み、物語紹介を家族にしよう  
「一つの花」
- 2 児童の実態と本単元の意図
  - (1) 児童の実態

(略)

② 物語紹介や対話を通して、物語の読み方や感想のもち方をより豊かにしていく学習

「白いぼうし」では、教材文に語句として表されていない気持ちや様子を読み取る学習を行った。しかし、どの言葉が登場人物の何を表しているのか、それが、どのような様子なのかを読み取れない児童が多くいる。読み取れている児童でも、自信をもてずに発表や友達との共有が難しかった。読書が好きな児童が多く、日頃から本に親しんでいるのにも関わらず、読み取りが苦手なことと思いを伝えることが苦手なことが分かった。その主たる要因は、語彙の少なさに関係があると考えられる。実際、令和4年度のTK式学力テストの語彙に関わる項目では、埼玉県の平均値に届かないものが多くあった。

そこで、本単元の様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増す学習の中で、少しでも発表がしやすいように、小さな集団で対話を行う。そして、自分の読みと比較させながら、様々な感想のもち方があることに気付かせたい。この活動を通し、意見を述べることに自信をもたせると共に、人それぞれ注目する点や、考えが違っていると分かることで、より深く物語の内容を捉えられるようにしていきたい。

学習の終末では、自分もった感想と合わせて、「一つの花」について家族に紹介する活動を行う。戦争が大変そうといった感想を述べるのではなく、物語の設定や友達との対話をもとにして、どのような出来事や様子から物語について想像したのかを紹介できるようにしていきたい。

## (2) 本単元の意図

本単元は学習指導要領（知識及び技能）の（１）オ「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること」と（思考力、判断力、表現力等）の「C読むこと」（１）イ「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」、（１）エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」（１）オ「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと」を受けて設定している。

### 身に付けさせる資質・能力

- ・叙述を基に登場人物の気持ちや行動を捉え、場面を具体的に想像し、理解したことをもとに感想や考えをもつこと。
- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすること。

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、学習の見通しをもたせる。

まず、単元名とリード文を読み、学習目標を確認させる。次に、行間の区切りに注目して形式的に場面分けを行い、そこで分かれる理由について考えさせる。その際、時間の流れや登場人物の変化に着目させるようにする。そして、戦争中と戦後の場面に分かれているという概観を掴ませ、戦争とはどのようなものなのかについて児童の関心を高められるようにしていきたい。

第2次では、物語の様子を具体的に想像しながら本文を読み、叙述を基にして登場人物の気持ちを捉える学習をする。

本教材の「一つの花」で、児童が登場人物の気持ちを想像しながら読むには、戦争体験についての知識が乏しすぎる。登場人物が生きた時代の状況をよく理解して読むことで、それぞれの人物の気持ちを読み取れるだろう。そこで、物語の設定を読み取る学習を行い、戦争について分かる様子や出来事の叙述に着目させ、登場人物の生きた時代について理解を深めていく。戦争という状況下だからこそ、登場人物の辛い気持ちや、明るい未来への希望を抱いていることに気付かせていきたい。

次に、前時に見つけた、お父さんの様子や行動、気持ちや性格を表す語句を基に、気持ちを想像させていく。戦時中という時代背景を踏まえて、児童一人一人が考えたお父さんの気持ちを、班で対話しながら、自分の考えとの相違点を見付けさせる。そうして、人物像を深く読み込むことで、台詞や行動に込められた気持ちをおさえる。

また、二の場面の最後には、教材文の題名である「一つの花」が出てくる。それまで、お母さんがゆみ子に「一つだけ」と食べ物を渡すところを見てきたお父さんが、娘にあげる最初で最後の贈り物に、どのような気持ちを込めたか想像させていく。戦争に行つて自分が死んでしまうことを悟っているお父さんは、自分の願いを託して「一つの花」をあげたことから、お父さんの思いの強さが題名に表れていることを確かめる。

最後の場面では、戦後になり「一つだけ」という言葉が使われなくなった理由を考えさせる。お父さんの願いは叶ったのか、お母さんやゆみ子の生活の様子から読み取らせ、物語について感想をもたせる。

第3次では、家族に物語を紹介するという言語活動に向けて、初発の感想と、詳しく読んだ感想を対比させて捉え方の変化を確かめさせる。その際、感想がどのように変化をしたのか友達に聞かせる活動を通し、家族に紹介する活動において、何を伝えたいのか焦点化させる。

最後に、前時で焦点化した紹介したいことについて、文章にまとめる。家庭学習の音読の際に家族に聞いてもらい、自分の考えが伝わることで具体的に物語を読むことができた達成感を味わわせたい。



### 3 研究主題との関わり

#### 研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』

#### ～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

#### 仮説①

基礎的・基本的な知識・技能とその単元を通して付けたい資質・能力を明確にし、その力を付けるための言語活動を設定する。言語活動（学習のゴール）に向けて、主体的に学び、学ぶ楽しさを味わうことにより、生きて働く力が育つであろう。

〈手だて〉 ○物語を家族に紹介するために、叙述にある様々なことを表す語句を基にして詳しく読む。

学習のゴール「物語紹介を家族にしよう」に向け、主体的に学ぶための手だてとして、叙述から詳しく読み取り、自分の感想をもつ学習活動を設定する。4年生で最初に学習する物語文「白いぼうし」では、児童の語彙の少なさから、登場人物の様子を読み取らせることに苦労をした。

本教材では、戦争のことを表す語句だけでなく、戦争の時代だからこそ、捉え方がより重く感じられる語句なども多く取り扱われている。それらを基に考えを深めるには、物語の設定をよく理解した上で、それぞれの登場人物の気持ちや様子が分かる語句を探させる必要がある。

語彙が豊かになっていくことで、自分が物語について感じたことや考えたことに変化が生まれ、家族に伝える活動を通し、自分の読み取り方の成長を実感させられると考えられる。

#### 仮説②

単元を通して、相手意識・目的意識をもった学習活動を工夫する。協働的に学び合う場を設定し、互いの思いや考えを主体的に伝え合い、考えを広げ深めることにより、生きて働く力が育つであろう。

〈手だて〉 ○物語を家族に紹介するために、友達との対話を通して自分の考えを深める。

戦争をテーマにした教材文を読むには、児童の戦争に対する理解は不十分である。そのために、仮説①では、物語の設定をよく理解させる学習をすることになっている。しかし、設定を把握してからであっても、どの語句が何を表しているのか見つけられないことが予想される。それは、自分の考えへの自信の無さや、これまでの学習の積み重ねの不十分さが原因だと考えられる。そのために、次の二つの活動を取り入れていく。

まず、対話を通して、自分の考えをもち、登場人物について理解を深める活動を行う。自分の考えに対する自信の無さについては、全員の前で発表しようとしないうえから感じられる。しかし、班活動の中では意欲的に話すことのできる児童が多い。語彙を豊かにし、そこから読み取れることを広げるといった目的のもと、小さな集団で対話する活動を行う中で、自分に無い考えと出会ったり、自分とは違う捉え方をしている友達の意見を聞いたりして、物語に対する考えを深めていけると考えられる。

次に、第3次において家族に紹介する活動を設定する。毎日、宿題で音読を聞いてもらう家族に、自分の物語の捉えた内容について紹介する活動を見据えて学習をすることで、考えをもつことが苦手な児童も対話をする必要性を感じて学習するだろう。また、友達のことを聞くことを通して、自分の意見を持てるようにしていけると考えられる。

#### 4 単元の目標

- (1) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ
- (2) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。  
 〈知識及び技能〉(1)オ
- (3) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ
- (4) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。  
 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ
- (5) 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉がもつよさに気付こうとしているとともに、幅広く読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。  
 〈学びに向かう力、人間性等〉

#### 5 本単元で取り上げる言語活動

場面同士をくらべて読んで、考えたことを伝え合う活動。

(関連：C読むこと 言語活動例イ)

#### 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	叙述をもとに登場人物の気持ちを考え、進んで友達と対話して、自分の考えを伝えようとしている。

#### 7 単元の指導と評価の計画 (全8時間)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○単元名から学習の見通しをもつ。また、教材名やリード文から、物語の世界感を想像してから読み、初発の感想をもつ。	○学習課題の確認 ○単元全体の見通し ・単元のゴール	○教材名から「一つの花」がどのような物語なのか想像させ、興味関心を高める。 ○自分が想像した「一つの花」と範読を聞いてからの「一つの花」について対比させ、感想を書かせる。
	2	○場面を形式的に分けて、理由について考える。	○文章構成 ○物語の概観	○物語の設定に着目して分け方の根拠を探させる。 ○戦争中と戦後のことが書かれていることをおさえる。



2	3	<p>○物語の「設定」を確かめる。</p> <p>・一人学び</p> <p>○設定と初発の感想をもとに登場人物について考えたいところを見つける。</p>	<p>○用語「設定」の意味</p> <p>○物語全体の設定</p> <p>・登場人物</p> <p>・時代</p> <p>・季節</p> <p>・場所</p>	<p>○音読しながら、設定に関することを探させる。</p> <p>○戦争について分かる描写についておさえる。</p> <p>○「一つだけ」という台詞について、ゆみ子の気持ちを想像させる。</p> <p>○「お父さん」の気持ちで特にどこを深く考えたいか決めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 発表・記述・観察</p> <p>・叙述をもとに、登場人物の行動や気持ちを捉えているか確認する。</p> </div>
	4 本時	<p>○お父さんの気持ちについて叙述をもとに、考える。</p> <p>・グループ学習</p>	<p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句</p> <p>○叙述から想像して読むこと</p> <p>○対話の視点</p> <p>○場面の移り変わり</p> <p>○場面同士のつながりから想像して読むこと</p> <p>○感じ方の違いに気付くこと</p>	<p>○お父さんの様子や行動から、考えられる気持ちを話し合わせる。</p> <p>○読み取ったことの発表をもとに、相違点を見つけ出させてお父さんの気持ちをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】 【思考・判断・表現②】 発表・記述・観察</p> <p>登場人物の様子や行動、気持ちや性格を表す語句を基に、気持ちを想像しているか確認する。</p> </div>
	5	<p>○お父さんのあげた「一輪のコスモスの花」「一つの花」などの花の表現のしかたから、題名にこめられた思いを読み取る。</p>	<p>○対話の仕方</p> <p>○対話の視点</p> <p>○叙述から想像して読むこと</p>	<p>○場面の様子から、お父さんの気持ちの変化を読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 発言、記述</p> <p>・叙述をもとに登場人物の気持ちを考え、進んで友達と対話して、自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>【思考・判断・表現②】 発表・記述・観察</p> <p>・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているか確認する。</p> </div>

2	6	<p>○最後の場面に「一つだけ」が出てこない理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人学び</li> <li>・グループ学習</li> </ul>	<p>○場面の移り変わり</p> <p>○場面同士のつながりから想像して読むこと</p> <p>○感じ方の違いに気付くこと</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現③】</b>  <u>発表・記述・観察</u>          ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているか確認する。</p> </div>
3	7	<p>○初発の感想と、詳しく読んでみて感じたことを対比させながら、感想を書く。</p>	<p>○感想の書き方</p> <p>○自分の考えの対比の仕方</p> <p>○原稿用紙の使い方</p> <p>○推敲の仕方</p>	<p>○初発と詳しく読んだ後の自分の捉え方を見て、どのように考えが変わったか構成メモを作らせる。</p> <p>○物語の説明文にならないよう書き方の指導を行う。</p> <p>○書き出せない児童には、書くための型を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現③】</b>  <u>記述</u>          ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているか確認する。</p> </div>
	8	<p>○感想を発表し合い、感じ方の違いを見つけて、伝え合う。</p> <p>○感想をもとにして、家族への紹介文を書く。</p> <p>○家庭音読で感想を家族に聞かせて書いてもらった感想をもとに、学習を振り返る。</p>	<p>○感想発表の仕方</p> <p>○感じ方の違いを見つける視点</p> <p>○感じたことの伝え方</p> <p>○紹介文の書き方。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【思考・判断・表現②】</b>  <u>発表・記述・観察</u>          ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているか確認する。</p> </div>

8 本時の展開 (4/8時間)

(1) 目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

〈知識及び技能〉(1)オ

- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ

(2) 評価規準

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。

【知識・技能】

「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。

【思考・判断・表現②】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 掲示物を見て、前時の学習を想起する。	○物語の設定 ○物語の概観 ○場面構成	○掲示物をもとに確かめさせる。 ○前時に線を引いたところをもとに、どのお父さんの気持ちについて考えたいか確認させる。	3
2 めあてを把握する。	○めあての把握		2
㊦ お父さんはどのような気持ちだったのでしょうか。			
3 お父さんの気持ちや様子を表す語句に注目して、二の場面の途中まで音読をする。	○気持ちや様子を表す語句	○自分が考えたい叙述に特に注目させる。 ○お父さんがゆみ子に渡した一つの花の部分については次時で考えることを伝え、その前までのお父さんの気持ちや様子、行動を表す語句を探そう促す。	7
4 音読をしてみて、お父さんがどのような気持ちだと思ったかを書く。 ・一人学び	○自分の考えの書き方	○書き方を示し、短い時間で一人学びを行えるようにする。  ○気持ちを考えさせる文や言葉は班で同じものを考えさせる。  ○机間指導で、戦争で辛い思いをさせてしまっているゆみ子に対する、やりきれないお父さんの気持ちを考えるよう伝える。	5



<p>5 4の一人学びをもとに、お父さんの気持ちについて話し合う。</p> <p>・グループ学習</p>	<p>○対話の仕方</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句</p>	<p>8</p> <p>〈評価場面〉 【知識・技能】 発表・記述・観察 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を見つけられた児童をB評価とする。 【思考・判断・表現②】 発表・記述・観察 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像したことを考えている児童をB評価とする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・友達との対話を通して、自分の考えをもてるように机間指導を行う。</p>
<p>〈期待される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんがめちゃくちゃに高い高いしたのは、「一つだけとしか言えず、自分の思い通りにならないゆみ子に、少しでも喜んでほしかったからだと思います。」</li> <li>・「めちゃくちゃ」はよくないときにつかう言葉だと思うので、それだけ辛いお父さんの気持ちが表れているのだと思います。</li> <li>・深いため息をついたのはゆみ子のことがかわいそうだったからだと思います。</li> </ul>		
<p>6 全体で交流して、登場人物の気持ちと、それを表す語句を確かめる。</p>	<p>○振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で学んだこと</li> <li>○今後の学習の見通し</li> </ul>	<p>10</p> <p>○全文プリントで語句を確かめながら発表を聞かせる。</p> <p>○それぞれの班の発表後、各班の共通点やお父さんの気持ちのキーワードを見つけさせる。</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんは辛い思いをゆみ子にさせたくない気持ちだったと思います。</li> <li>・めちゃくちゃに高い高いをしたというところから、辛い思いをさせたくないけど、我慢をさせなければいけないことがお父さんもつらかったのだと思います。</li> <li>・辛い中でも喜ばせたい、ゆみ子に少しでも明るい未来が来てほしいという気持ちだと感じました。</li> <li>・きまっつてと言っているので、何度も同じことを考えることがあったと思います。</li> </ul>		<p>5</p> <p>○本時の学習で学んだことを自分の言葉でまとめさせる。</p> <p>○自分でまとめるのが難しい児童には、話型を提示し、言葉を当てはめて書くことを助言する。</p>
<p>7 本時の学習についてまとめる。</p>		<p>5</p> <p>○次時で話し合う、「一つの花」について考えるときに、お父さんが花や言葉にどのような気持ちを込めたか、本時の学習をもとに想像させる。</p>
<p>㊦ お父さんは、辛い思いをさせたくないけれど、どうしても我慢をさせてしまうので、苦しい気持ちだった。それでも、少しでもゆみ子に幸せになってほしいといつも願っていたのだと思いました。</p>		
<p>8 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で学んだこと</li> <li>○今後の学習の見通し</li> </ul>	



